

暑いですなー。一じり暑いとろくなことを思いつきませんなー。

「ホトトギスめ、なにを託卵どるんや」

とまあ、こんな程度ですなー。

いやー、暑い暑い。

さて、とうとうゴジラシリーズは終了するらしい。でも、デストロイアの時もそんなこと言ってなかったっけ。まあ、どうでもいいけどね。心配なのは、ゴジラシリーズのあとは何をするのかということだ。まさか、モスラシリーズじゃないでしょうね。モスラというのはようするに蛾である。あの当時は、なんでもかんでも既成の生物を巨大化して語尾に「ラ」をつければ怪獣一丁上がりという風潮があり、モスラはその嚙矢ともいえるべき存在である。ほかに思いつくまま例をあげると、エビラしかり、ガメラしかり……ええとほかにはないかな。とにかくそういう風潮があったのだ。今は怪獣も多様化し、を巨大化した、というだけの単純なやつはほとんど姿を消してしまった。ゴジラシリーズが終了したのを契機に、今また、あの「たんにでかくしただけ」の単純怪獣たちを復活させようではないか。なんだってでかくすれば怪獣である。ヒヨコでもダンゴムシでもブタでもゴカイでもフジツボでもメダカでもプランナリアでもノミでもシラミでも……。そうそう蚊なんかどうだろう。メガガラスというのはトンボの怪獣で、なーにがメガガラスじゃいと言いたくなるような不細工なやつだったが、トンボが怪獣になれるのなら

蚊だっただいじょうぶだ。一応、吸血生物だしね。空を覆い尽くすほどの巨大な蚊が、日本に襲来する。うわあ、考えただけでもぞつとするぞ。蚊のなにが嫌かって、あの「ワーン……」という羽音ね。あれのめちゃめちゃ増幅されたやつが聞こえてくるんだらうな。まさにメガトン級の蚊である。まさに……

「蚊もメガトンだ」

なるほど、これが言いたかったわけですね。長々とひっぱってしかし、それだけでかい蚊の怪獣、どうやって退治するんだらう。

「この一発のミサイルにすべてを託します」

全人類の希望をこめたミサイルが発射され、蚊の怪獣の頭上で爆発した。凄まじい閃光が天空を覆い、怪獣は六肢を痙攣させて倒れた。ついに人類の危機は回避された。それにしてもあのミサイル、いったいどんな威力があつたんだらう。

「弾頭に除虫菊を詰めてあつたんです」

やっぱりあの光は、蚊取り閃光だったか。

しかし、考えてみたら、蚊の怪獣つてもしかしたらすでに存在するかもしれないな。最近の怪獣はほとんど知らんし。カメラモスキートというのはデストロンの怪人にいたけど、怪獣じゃないから。

壇一雄が「美味放浪記」という本に、

「たしかモスキドンといったか、蚊の怪獣が登場する映画があつたと思うが……」

と書いているが、もちろんそんな怪獣はいません。

というわけで、今回もはじまるラクゴ・ザ・フューチャーだが、前回のおわりに「次回は涼しくなるSFという二つとで」と予告したのを覚えておられるかたはいらっしゃいます……せんね。じゃあ、別のテーマということ……え？ なに？

覚えてる？ 忘れなさい。すぐに忘れなさい。忘れられない？ あんた、そういう細かいことでは大きな人間になれないよ。もつとおおらかでないと。なぜ、忘れてほしいかというところ、あれからいろいろ考えてみたのだが、私はSFに対して無知である。そのSF知らずな私に、「涼くなるSF」のガイドなんぞができるわけがない。え？ どうしても？ しゃあないなあ。そこまで言うならやってもえるか？ どないなつてもしらんで。では、今から皆さんをめくるめく「涼くなるSF」の世界へとご案内いたしましょう。ツアーコンダクターは私、田中啓文です（やけくそ）。

まず最初に断っておきたいのは、私は物覚えがすごく悪い。昔から悪かったのだが、最近、とみに記憶力の減退を感じる。だから、以前に読んだ小説でも、内容をほとんど覚えていないのだ。といって、このエッセイのために長編を何冊も読み返す時間がないので、なかみは「うる覚え」の状態での「ご案内」である。だから、記憶に誤りがあれば、嘘八百を並べた状態での「ご案内」になるかもしれない。それでもよかつたら以下をお読みください。いやなかたは、ここで読むのをやめてください。いいですか、わかりましたね。

まだ引き返せますよ。

まだだいいじょうぶですよ。

まだまにあいますよ。

では、今、ここに残っておられるかたは、皆さん、嘘でもいい、いつわりでもいい、でたらめでもいい、むちゃくちゃでもいい、許す承諾する許可するという人たちですな。ああ、これで気持ちが悪くなった。

まず最初に、今回の流れにあわせて、怪獣の話題からいっつ、いわゆる冷凍怪獣たちである。何？ 怪獣がSFかって？ また、あんたかいな。あいかわらず細かいこというねー。

無視無視。こいつは無視しよう。で、冷凍怪獣だが、覚えて
いるのをアトランダムにあげると、まず、ガメラシリーズ第
二作に出てきたバルゴン。トカゲみたいなやつですな。冷凍
怪獣なのに、水が弱点という変なやつである。氷はいいのか
ねえ。あと、有名どころでは、ウルトラQに二度登場したペ
ギラ。でかい身体で、空も飛べるし、ものを凍らせたり、空
に浮かせたりするのも朝飯前というすごいやつなのに、なぜ
かペギミンHという、南極にしか生えないコケが苦手なのだ。
コケぐらいええやん。あと、地味なやつでは、その名もずば
りアイスラーという、ドイツ人っぽい名前のやつがいたなあ。
ジャイアント・ロボに出てくるやつ。顔の両端に紐みたいな
のがついていて、そこから雪みたいなのを噴射して、もの
を凍らせる。ウルトラマンに登場するギガスを冷凍怪獣扱い
している本もあるけど、私の記憶では、本編ではとくにもの
を凍らせたりはしていないように思ったけど。ウーも同様。
雪山にいる、というだけ。ウルトラセブンに登場するポール
星人やガンダーも冷凍怪獣の一種なのかもしれないが、あま
りそういう意識はない。帰ってきたウルトラマンにも冷凍怪
獣いたっけなあ。えーとえーと、なんだっけ。そうそうバル
ダック星人。雪男の正体はこいつだった、という話だったと
思うが、頭でつかちのヒヨコみたいな顔なので、千人の目の
悪い山男たちが見ても、ひとりも雪男と見間違えることはな
いと思われる。スノーゴンというそのものズバリの名前のや
つもいたな。なんと、雪女に化ける怪獣なのだ（わけわから
ん）。ウルトラマンAあたりになると、つる覚えもつる覚え
になってくるが、スノーギランというのは覚えてるぞ。こい
つは、なんとなんとナマハゲにあやつられていたのだ（なさ
けない）。アイスロンという、商品名みたいなやつもいた。
でも、どんな怪獣だったかはまったく覚えてない（厳密には

超獣だが)。フブギララという、吹雪を起こすやつもいたけど、これまた何も記憶にない。名前だけかろうじて覚えている。ウルトラマンタロウ以降は知らん。

あのね、冷凍怪獣というのは、科学的には不可能なんだよ。あ、またあんたかいな。細かいこと言うなっちゅうとんねん。ええやないか、冷凍怪獣は男のロマンや。無視無視。先に進めましょうね、みなさん。

続いては、涼くなるSF小説。「八甲田山」とか、ハモンド・イネスとかアリスティア・マクリンなんかの冒険小説には寒いところで寒い目にあうタイプのやつがたくさんあるのだろうが（よく知らない）、ここはあくまでSFにこだわりたいと思う（つる覚えでのご紹介であることをお忘れなく）。

まず、ハル・クレメントの「アイスワールド」。そうですね、「重力の使命」のあのハル・クレメントです。ほんとうる覚えで申しわけないのだが、たしか、ものすごく暑い星に棲む何とか星人が主人公で、彼が地球に潜入捜査する……みたいな話だったように思う。つまり、その宇宙人にとっては地球がアイスワールドということですね。しかし、それ以外のことは何にも覚えてないなあ。

と書いたところで、次の作品を紹介しようと思ったが、なんにも思いつかない。山田正紀の「氷河民族」って、たしか吸血鬼ものだったような気がするけど、寒い場面ってでてきたっけなあ。菅浩江の「氷結の魂」は、めっちゃめっちゃ寒いところを軍隊が進むような場面があったけど、ファンタジーだしなあ。キャンベルの「月は地獄だ」に、すごく温度がさがるといような場面があったような気もするけど、なにしろ二十五年ぐらいまえに読んだのでなーんにも覚えてないなあ……。

そうだ、ひとつ、すごい作品を思い出した。「涼くなる

SF」の決定版ともいべき作品である。かんべむさし大先生の短編「氷になった男」である。「小説マガジン」という雑誌に載ったやつで、今は何という短編集に入っているのかなあ。カフカの「変身」のパロディで、主人公のミズコール・サムサ（すばらしいネーミング！）はある朝起きると、なんと氷になっていたのである。いやはや、あのころのかんべ先生はすごかった。発表する短編どれもがハイレベルで、私は一読ごとに狂喜していたものである。「背で泣いてる」とか好きやったなあ……。

最後にひとつ、私の作品をご紹介します。「忘却の船に流れは光」……どうです？ 某評論家に「あなたにこんな真面目なものが書けるとは思わなかった」と感心された作品で、日本SF大賞にノミネートされました。読んだ人、拳手をお願いします。えーと……あ、誰もいませんね。

「私は読みました」

また、あんたかいな。で、どうやったんや、感想は。

「めっちゃ寒かった」

これぞ究極の「涼くなるSF」……！

このように、今回も中途半端な紹介で終わってしまうのだが、どうでしょう、皆さん、少しは涼しい気持ちになつたでしょうか。なるわけない？ そらそうだ。とりあえず読んでいただかないと……何？ 入手困難なやつばかり並べやがってって？ うう……そういわれてもなあ……。図書館が古本屋でさがしてみてねっ（「忘却の……」は入手容易です……って、もういい？）

（了）